

心のとびら

弥富市立桜小学校
道徳通信 No.19
平成27年8月3日

“なかま”について考える ～3年生の道徳では

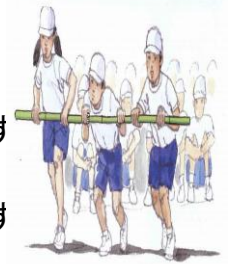
7月9日（木）に3年松組の教室で、道徳の研究授業を行いました。3年生の児童は、グループで遊んだり学習したりすることが増えるため、仲間とのトラブルが増える時期でもあります。そこで、『同じ仲間だから』という資料を通して、仲間の気持ちを考えて行動することの大切さについて考えました。

運動会の種目「台風の目」の練習前に、運動が苦手な光夫が指にけがをして登校しました。体育を休むほどではないと光夫は言いますが、同じチームのひろしは「休んだ方がいい」と声をかけます。それを聞いた同じチームのとも子は、勝つためには休んだ方がいいけど、仲間はずれにすることになってしまうと悩みます。その後、転校したよし子からきた手紙を思い出し、努力していても分かってもらえないつらさに気付きます。

そこで、「自分だったら、その後どのように行動するか」を考えました。「勝つことよりも仲間と一緒に練習することが大切だから、光夫に声をかける」「仲間はずれはよくないことだと、ひろしに言う」という意見がでて、仲間とともに取り組むこと、仲間はずれをしてはいけないことについて考えを深めることができました。

みんなの意見

- ★ 仲間で協力し合えば、もっと楽しくなると思います。
- ★ これから仲間はずれにされている子がいたら、やさしく声をかけます
- ★ 苦手なことがあっても、助け合っていくことが大事だと思いました。
- ★ 友達ががんばっていることを分かってあげられるようになりたいです
- ★ 仲間はずれはだめだよと、声をかけたいです。



自分がとも子さんだったら、
どのように行動しますか。

ひろしさんに、みつおさんもいっ
しょにやろうと言いにいきます。

